

「園芸用施設の設置等の状況（R7.4月公表）」（概要）
（園芸用施設：令和4年11月～令和5年10月）

1 園芸用施設の設置面積

ガラス室・ハウスの設置実面積は 37,000 haで、2.4%減少。

園芸用施設の設置実面積は 37,000 haで、令和4年から 2.4%減少した。（表1）。

表-1 園芸用施設被覆資材別設置実面積 (単位:ha)

種 類	令和5年	令和4年	前回比
ガラス室・ハウス	37,000	37,907	97.6%

※ 四捨五入により計が合わない時がある。
 （以下の各表について同じ）

2 省エネルギー設備等の設置状況

園芸用施設の省エネルギー設備等の設置状況は、加温設備のあるものが令和4年から 1.0%減少の 16,512ha となり、化石燃料のみに依存するものは同 2.1%減少の 14,592ha、化石燃料のみに依存しないものは同 7.9%増加の 1,917ha となった（表-2）。

表-2 省エネルギー設備等の設置実面積

(単位:ha)

区 分	令和5年	令和4年	前回比
ガラス室・ハウスのうち加温設備等のあるもの	16,512	16,676	99.0%
化石燃料のみに依存するもの	14,592	14,899	97.9%
化石燃料のみに依存しないもの	1,917	1,777	107.9%

加温設備を種類別にみると、石油利用等が 14,327 haで加温全体の 86.8%を占めており、次いで、ヒートポンプ利用が 1,094haで 6.6%、地下水等利用が 675 haで 4.1%、LPガス・LNGが 265 haで 1.6%、木質バイオマスが 116 haで 0.7%の順となった（表-3）。

表-3 加温設備の種類別設置実面積

(単位:ha)

区 分	令和5年	構成比
加 温 面 積	16,512	100.0%
石油利用等	14,327	86.8%
ヒートポンプ	1,094	6.6%
地下水等利用	675	4.1%
LPガス・LNG	265	1.6%
木質系バイオマス	116	0.7%
産廃・都市ゴミ	10	0.1%
太陽熱利用	7	0.0%
そ の 他	19	0.1%